



第99号

平成29年7月14日

発行 奈良教育大学 附属中学校 育桜会
編集 広報部
印刷 (有)山田印刷



桜 駅 の 話
学校長 松川 利広

今回は、今までの桜シリーズをふまえて「桜駅の話を」として。そのまわりの桜はひとひらの桜の花びらでした。

証として一片の桜が残り、くもくとした花びらを見ていると、ふと、杉山平一「桜」(詩)中の比喩が過ぎりました。

「全国駅名事典」(創元社)によると、「桜(駅)」は名鉄名古屋本線と近鉄湯の山線の二例あり。どちから私にとって馴染みのある駅で、名鉄の方は、大へ通うときの通過駅の一つで、車窓からながめていました。

近鉄の方は、車で実家に帰るとき、時々立ち寄る草餅屋さんの近くにあり、ふかき「(定本)本越郎全詩集(五七九頁)」の中の景色とどこか重なるところがあり、穏やかな気持ちになられる駅であります。

駅には、様々な人々の息づかいがあり、様々な心が行き交います。それだけに、人の数だけロマンがある。乗る人、降りる人、乗り換える人、途中下車する人、毎日利用する人、一回りする人、旅から帰ってきた人、希望に胸膨らませてい



伝統は創るもの
副校長 谷口 尚之

去る五月一日、附属中学校は開校七十周年を迎え、翌二日には多くのご来賓にご臨席いただき「記念式典音楽会、祝賀会を開催いたしました。

重桜会の皆様から、物心両面にわたってご支援をいただきました。改めて衷心より御礼申し上げます。

この七十周年の間に、「一、五三八名の附中生が、われらが「まなびや」を築いてきた。この内外を問わず、社会

の様々な場で、「真理を求め平和を願う」しあわせな世の中を築く人間」として活躍されています。

その附中の自由のなかでも、もっとも大切な自由は、生徒と教師が一緒になって学校を創る(授業や行事の行事を創る)自由と私は思っています。



築立てよう
育桜会会長 佐藤 真理子

一五二名の新入生の皆さん、保護者皆さま、ご入学おめでとうございます。皆さまの門出を心からお祝いいたします。

中学の三年間は、学年全体での行事を通して、学ぶ事がたくさんあります。また、部活動など中学生の交流もして先輩や後輩と日々成長していることと

思っています。子ども達の感じている心の不安や悩みは多く、そのほとんどが、私達大人がかかっている経験し、乗り切ってきたことです。

中学生という二年間は、そんな心の変化を体験する時期です。心が最も揺れ動く思春期真っ只中の子どもたち、不安も多かたこと存じますが、子どもが成長するのは、自分自身で乗り越えていくことではないかと思

も、たくさんいるということなのだと私が子育てをするうえで感じております。親として、子どもに悩んでいる様子が見られ、おおらかに受けとめ「ちゃんと育てよう」と親の意思で子どもを左右するのは、決して「築立てよう」として受け止める方を見方を見守るほうが、親子ともお互いに「育ち合っ



創立70周年を迎えました
5月2日、澄み渡る月夜に、創立70周年記念式典が、音楽会、祝賀会、合唱、祝賀会、卒業生による校歌斉唱、祝賀会、卒業生による校歌斉唱、祝賀会、卒業生による校歌斉唱...



附属関連の合同研修会資料等は図書室入口右側「育桜会関係資料」の棚にありますのでご覧ください。

本部報告
近畿国立大学附属学校連盟・近畿国立大学附属学校PTA連合会
合同総会・実践活動協議会
5月20日(土)・21日(日)
京都教育大学附属桃山
テーマ
「大人も学ぼうメディアとの付き合い方」

平成29年度 育桜会役員
育桜会会長 佐藤 真理子
副会長 荒井 小百合
会務 柳生 祥美
幾野 敦子
渡邊 朝香
松山 淳子



6月12日 快晴の中、スポーツデイが開催されました。附中レコードを目指し、各々が全力を發揮しました。



